静岡発「ケナフ・ネット・ニュース」第１４号（令和　５年)2023.４．２０．（木）

早々と桜の花が全国を駆け巡り新緑が美しい初夏の季節になりました、

（文責）鮫 島 一 彦　（ケナフ協議会・静岡グループ）
ケナフ協議会会長・高知大学名誉教授

★ケナフ協議会 HP の QR コードー→

皆さまの地域の豊かな自然と地域文化の様子はいかがでしょうか？

国内外の情報によると、2022 年度は世界的なコロナ禍や気象異常などの影響を受けたものの、世界各地で新しい形での事業が展開され、それなりの新しい方向性がでてきたことが分かります。ケナフ協議会でも新しい事業として、大牟田で第１回勉強会を開催するとともに、持続可能な開発目標 SDG s を目指す新しい会員の方々を受け入れ、種子販売の要望や問い合わせなどにも対応し続けてきました。2023 年度もこれらの活動を継続・拡大し、30 年前の協議会設立時の「地球環境改善」の初期目標に少しでも早く近づけることを目指します。

日本政府も 6 月までに骨太の方針を決定するために国民の声を聞きながら、国会や選挙戦で今後の方向性を模索し続けています。老若男女すべての人々が満足する、完全無欠な方針の決定は不可能です。多くのアスリート（野球、パラリンピック、サッカー、ラグビー、競馬など）や文化人（音楽・美術、文学、美術など)、専門家（科学、技術、経営学、考古学など）が示すように自然と環境に学び続けながら、あくまでも宇宙の原理に基づいて挑戦しつづけるしかありません。

実は、ケナフ協議会の 202３年度（202３年４月から 202４年３月）の事業計画については会長諮問委員会のメンバーを中心に沖縄の事務局の活動がコロナ感染防止のため停止した 202１年度初頭からすでに検討が始められてきたものです。しかし、ご承知のようにその後も新型コロナのいくつもの大波の影響などを受け、最終決定に至らず、現在まだ検討中の状況です。現在、2022 年度第１回勉強会で取り上げた大牟田での「紙おむつリサイクル事業」を中心にしながら、ケナフやバイオマスの利用技術をさらに進展させ、子供から高齢者まで地域社会の全ての分野の皆さんと協力しながら、地球環境、経済、生き甲斐など、地域社会のへの発展に貢献できる総合的な事業計画の初期段階の検討が続いています。

全国的には、各地でそれぞれの地域でケナフ関係の事業がその適用範囲を広げながら新しい可能性を見出し

続てています。　大牟田での勉強会では、これまでのケナフ協議会の会員の枠を超えた新しい学術的な検討手法が紹介されるとともに、新たなバイオマス資源利用事業紹介されました。即ち、202３年度以降も世界のＳＤＧｓの取り組みと連動した形で、ケナフ協議会は 30 年以上の歴史を持つケナフ協議会の伝統技術を発展させながら、様々な人々と協力しながら取り組みを続けることになります。世界は資源のリサイクルのみでなく、廃棄物処理の高度化と資源化の現代的な発展を期待しています。紙おむつリサイクルとケナフ栽培、農林水産資源問題との連携の実績を日本で発展させ、今後のバイオマス資源の総合的な利用発展を追求することは世界の文化の発展にも寄与できる重要な課題です。

（前ページの写真の説明）

静岡の青空に映える鮮やかな黄色のキバナイペーの開花

静岡市駿河区子鹿 2023.4.13. 鮫島撮影

キバナイペーは別名コガネノウゼン、ブラジル国花です。
静岡では庭植栽が多い。台湾では、街路樹として植えられ、日本の桜同様、春に一斉開花し、短期間で散る。沖縄でも街路樹として植えられているところもあります。今年は３月１日に沖縄市中央保健所通りで満開だった（琉球新報）。

静岡県は藤枝市、富士市は、他の地域と同様に紙パルプ産業や農林水産業を中心とした、多くの廃棄物処理技術の実績・蓄積があり、今後さらに高度に発展させられるでしょう。

- 「ケナフ協議会の静岡グループ」は、静岡地域における 「ケナフ等地域バイオマス植物資源の栽培・利用」、ケナフ協議会の「KB プロジェクト推進」、国連の持続可能な地域社会目標（SDGｓ）の協働事業の一環として、独自の「里地・里山」の復権・子育て支援、紙漉き、伝統野菜、花卉、繊維作物などの栽培、イベントの開催など、自主性を尊重しながら楽しんでいるグループです。その静岡フループの活動の取り組みを中心にこの「静岡発ケナフ・ネット・ニュース」は作成されています。

ケナフ協議会は 2021 年 4 月に四国中央市から沖縄に事務局を移転して活動を続けていますが、他の分野と同様に、コロナ禍などの影響を強く受け従来の方式のみではアフターコロナウィズコロナ時代を見据えた取り組みが出来ません。そこで先日の大牟田工場での第１回勉強会をはじめ新しい方式を取り入れてなんとか活動を続けています。連絡先の確定作業などまだ不十分です。いろいろな地域の課題に対応するため、地域の老若男女が協働して SDGｓの活動に取り組める体制の構築をはじめています。全国の各地域での多くの業種、年齢層がお互い助け合いながら協働できるような事業の開発を目指していますのでいろいろな方法でのご協力をお願いします。この静岡発ネットニュースの発信は「誰一人取り残 さない」（No one will be left behind.）との国連の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の基本の考え方に従うケナフ協議会の新しい取り組みのひとつです。

ケナフ協議会では、この春もケナフ種子の販売を行います。既に会員登録をされている方には、会員価格で販売します。非会員の方には非会員価格でお願いします。発芽試験済みの種子を静岡から会長鮫島一彦が送付します。限定販売です。価格や注文方法などについては、電話 090-8286-8015 、ファックス 054-663-6257、あるいは郵送で、鮫島にまず連絡してください。